



アルゼンチン通信



第12号 2025年07月31日発行(毎月月末発行予定)

JICAシニア海外協力隊2024年1次隊:経営管理

玉東町グローバル2024年03月卒業生

鈴木功二 サンティアゴ・デル・エステロ在住

・7月に入り、あの6月の寒さはどこへ行ってしまったのかと思うくらい、急に春らしくなってきました。日中は気温が27℃まで上がることがあって夏になったかと思えば、朝の気温は5℃以下の日もあって、日によって大きな気温差があります。毎日、天気予報を見て、今日は薄着にするか厚着にするかを決めています。

・7月は、7月09日が独立記念日で祝日でした。私が住んでいるところから約150キロぐらい北西にあるトゥックマンで、1816年のこの日、スペインからの独立を宣言しました。日本であえて独立と言えば、サンフランシスコ平和条約が発効し、アメリカから独立を回復した1952年4月28日ですが、ゴールデンウィークの直前で祝日でもないの、覚えている日本人は少ないように思います。

・冬の寒さから少し解放された月の為か、7月はお祭りの月とも言え、「手工芸品のフェスティバル」(Feria Artesanal 2025)、「アメリカの聖母たちへのオマージュ」(Homenaje a las Vírgenes de América)、「伝統的な太鼓を使ったfolkloreの祭典」(La marcha de bombo)等々、多くのイベントが開催されました。

【街の中心部で行われた独立記念日のセレモニー】



【太鼓の行進】



・今回は、私の配属先である国立工業技術院(通称インティ)が推進している「地域食堂における食品の安全管理」の普及事業について、私の体験をもとに報告します。

・この事業の目標は3つあります。①地域食堂の加工状況を診断し、安全な食品製造のための最低条件を満たしていることを確認する。②地域食堂のスタッフに対し、安全な食品取り扱い技術のトレーニングを行い、汚染のリスクを軽減し、生産工程の効率を向上させる。③より栄養価の高いレシピや調理法、食材を取り入れ、食品の栄養価を向上させるための戦略を実施・開発する。

・私の職種である経営管理：品質改善や生産性の向上といった観点から私もお手伝いできることがあるかもしれないと思い、同行しています。

・日本にも、ドヤ街や被差別部落といったスラム街がありますが、アルゼンチンにも政府がWeb上で指定している貧困地域があり、治安が良いとは言えないので、ふだんは近づかないようにしています。しかし、私が配属されているインティでは、業務として街の中心から離れている貧困地域にある6つの地域食堂に対して食品衛生の活動をしており、インティの同僚と共に、7月は5回訪問しました。

・その地域に入った時の第一印象は、街中と比べて、1.道路が舗装されていない、2.路上のゴミが異常に多い、3.野犬が多いのが特徴と感じました。

・1は公共投資が少ないことの表れで、街中でよく見かける交番がこの地区にはなく、警察官を見かけることもありません。また、学校はありますが、図書館はなく、水道と電気は普及していますが、プロパンガスは高価で買えず焚き木で調理する家庭もあるようです。

・2は衛生観念の低さの表れで、街中にもゴミが散乱している箇所はありますが、定期的に市の清掃員が掃除しているので、酷い状態ではないのに対して、この地域では公共の清掃員が十分ではないようで、路上に捨てられたゴミはずっとそのままの状態になっているので、「異常に多い」と感じたのだと思います。

・3の野犬については、日本でも50年ほど前はいましたが、保健所や動物愛護センターのお陰で街中で野犬を見かけることはなくなりました。私が住んでいる市の街中にも野犬はいますが、飼い主と散歩している犬の方が圧倒的に多いのに比べて、この地域にも飼い犬もいるのですが、避妊コントロールをしていない為か、野犬が多く、予防接種はしていないので、野犬が群れを成していると怖さを感じます。野犬が多いもう一つの理由は、人々が優しく、食べ物をつかち合う習慣がある為だと思います。インティの同僚と昼食の時、私に食べ物の一部をおすそ分けしてくれる人がいたり、私が勤務している官公庁では、数頭の犬を飼っていて(犬が勝手に住んでいて?)、定期的に食べ物や水をあげています。

・貧困地域では、収入が少ない等、物質的に豊かではない傾向があるものの、地域食堂を立ち上げ運営している人々を見ていると、モノを分かち合うことができる精神的には豊かな人という印象を持ちました。

・私が地域食堂を訪問して最優先で導入すべきと思ったことは、「手洗いの習慣化」です。

・各地域食堂を訪問中に、共通して最も気になったことは、外から帰ってきた子供が手を洗わずに、クッキー等を手づかみで食べるのを誰も注意しなかったことです。手洗いをする事でウイルスによる悪影響を低減できるので、手洗いは安全衛生の基本です。幸いにして、清潔な水道水は普及しているので、外から帰ったら、犬や猫を触ったら、食べ物に触れる前に、食事をする前に、手洗いすることは可能です。食品を安全に取り扱う前提として、私は「手洗いの習慣化」が必要と思っています。

・特に子供が手洗いを習慣化できるように、私は8月以降も地域食堂へ訪問、サポートし続けます。

【街中の路上ゴミ。ゴミを漁る人がいるのが一因。】



【街中のゴミ箱。犬が漁らないように高い位置にある。】

【貧困地区の路上。白く見えるのはゴミ。だれも清掃しないので溜まるだけ。】



【地域食堂で食品衛生の研修中】



【地域食堂のキッチン、清潔かな？】



【地域食堂でインティの講師が安全衛生を熱く語る】



【ドアや窓に鉄格子、高い壁、バイクは敷地内、これも安全の為】



(スペイン語版を同時配信)

鈴木功二